

障害者の立場から「都構想」に反対します！

昨日 7 日、大阪市役所 1 階市民情報プラザで「仕事」をしていると、多くの障害者と支援の人たちが集まっていた。思わず外に出て写真を撮った。これから市役所周辺に分かれて「宣伝」活動に行くという。

6 日の朝日新聞朝刊によると、府内の約 90 の障害者団体でつくる「障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議」（障大連）が 5 日に記者会見し、大阪市を廃止して 4 つの特別区に再編する大阪都構想への反対を表明した。障害福祉サービスの低下や特別区ごとにサービスの格差が生じる恐れを理由に挙げた。

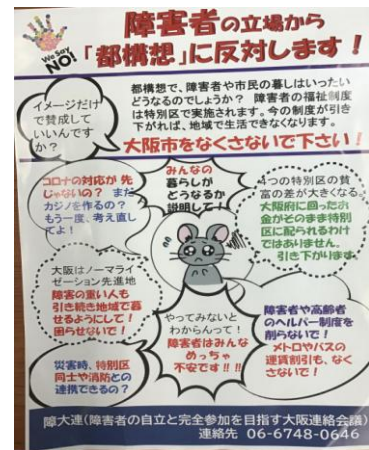
市役所で会見した障大連の古田朋也議長は、都構想実現で財源が減り、障害者の医療費助成などが削られかねないと主張。区によってサービスを受けられる時間や料金に違いが生じる可能性があるとも指摘した。会見に出席した発達障害のある男性は、利用している就労支援や訪問介護事業所が、自分が住む特別区とは別の区になっても続けられるかを懸念する。「(行政側から)何の説明もない。ようやく見つけた自分に合う事業所を利用できなくなれば、精神的な苦痛が生じる」と訴えた。

参加者は障害者の立場から、大阪市廃止「反対」を市民に知らせるため、活動を始めたという。配布チラシには、次のように書かれていた。

「都構想で、障害者や市民の暮らしはいったいどうなるのでしょうか？ 障害者の福祉制度は特別区で実施されます。今の制度が引き下がれば、地域で生活できなくなります。イメージだけで賛成していいんですか？ 大阪市をなくさないで下さい！」

障害者と支援の人たちの訴えを聞いて、本当に元気もらった。障害をもつ人たちの不安な気持ちが、チラシの文面や発言に。「やってみないと わからんって！ 障害者はみんな めっちゃ不安です!! !!」この言葉は障害者の人たちだけでなく、大阪市民全体の不安でもある。

「大阪はノーマライゼーション先進地 障害の重い人も引き続き地域で暮らせるようにして！ 困らせないで！」大阪市では障害者と家族、支援者の人たちが声をあげ、多くの団体が活動して、障害福祉制度を充実させてきた。大阪市が廃止されると、これまでの障害福祉が維持されるのか、特別区間で格差が生じるのでないか。こうした障害者の切実な声は重いものがある。大阪市廃止「反対」の声が広がることを期待したい。



(2020年10月8日)